

令和4年度 第1回 長野市災害復興計画検討委員会

日 時：令和5年3月16日（木）午後3時から午後4時まで

場 所：第一庁舎5階 庁議室

出席者：委 員 長野市災害復興計画検討委員会委員名簿（末尾に掲載）のとおり

事務局 総務部長、企画政策部長、財政部長、地域・市民生活部長、保健福祉部長、こども未来部長、環境部長、商工観光部長、新産業創造推進局長、文化スポーツ振興部長、農林部長、建設部長、都市整備部長、教育次長（行政担当）、上下水道局長、消防局長、総務部危機管理防災監、企画政策部復興推進特別対策室長、復興推進特別対策室職員

※代理出席あり

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

資料1、2について説明

【質問・意見】

<委員>災害対応力の強化についての意見。10月12日に大雨特別警報が出て気象庁から退避してなどの発信が国から住民に突然来たのですが、その間に長野市から各住民自治協議会の方へ、こういう緊急情報が出たので対策本部なりの準備をするようにとか、そういうことをしてほしい。

長沼地区はマニュアルがあるがマニュアルが無い地区もまだ結構あるのではと思うので、緊急情報を受けたら長野市としても何か情報を発信してほしい。住民はやっぱり近くの行政や住民自治協議会から指示されると、切迫感がある。

<市>基本的に、住民のみなさまに避難を呼びかける責任は市町村にあります。当時の市と地元との連絡が円滑でなかった部分があったとしたら、そういったご心配をかけることが無いよう、地元と我々の十分なパイプを作っていく必要があると思います。

特に長沼地区は、台風災害後、コミュニティタイムラインを作ったり、地区の防災計画を見直したり、毎年、防災訓練を開催して我々も参加させていただいておりますが、そういった地元と我々の普段からの連携もより深めていく必要があると思っています。また、他の地区にも取り組みをできるだけ広げて行くのも我々の仕事ですので、少しずつ進めて

いければと考えております。

<委員>気象庁からの情報に対して、大雨特別警報は初めてだったので、我々は何をしなきゃいけないというのがピンとこない。まず、市が各住民自治協議会に対して情報を出してほしいというのが私の希望です。

<委員長>河川の情報としては、千曲川は千曲川河川事務所がしっかり把握されていますし、支流の方に設置してある雨量計のデータというのは、県の河川課の方へ一括して集まってくるようになっていたと思います。国から市へというのも大切ですが、県の持っている情報に市から県の情報へ即アクセスして生データでそうした時間雨量や、ピーク過ぎたとか、そういうのも把握できればなと思います。

セキュリティの関係もあるかと思いますが、その辺の可能性と、あとは、市としてはそのデータを分析してどう対応したらいいかなども話し合われてきたと思いますけれども、やり取りに関して、県の立場としてはどうでしょうか。

<県>県には多くの情報が集まってきます。その情報がしっかり市や地元伝わったかといえば、必ずしもそうでなかったところがあるかと思います。災害を機にデータの出し方などの研究を進める中で、もう少し時間の余裕をもって、水位の情報を出せるようにしています。また、どの情報を国からいただいて、どんなルートで地元伝えるかについては、市と事務調整をしていきたい。また、先ほどお話あったマイタイムラインも有効と言われており、作り方についてはいろんなところに出ています。3月末に長野県の長野建設事務所のホームページに動画を作りましたので、ご覧いただければと思います。

<委員>情報のやり取りについて、資料2の3ページにある新しい長野市総合防災情報システムで対応可能なのでしょうか。令和元年東日本台風の際は、県と市の連携がシステムの都合により、うまくやり取りができなかった点があったと聞いている。今後、機会があれば新しいシステムについての説明をしていただければと思う。

<県>今後、どんな情報をやり取りするのか、市と詰めていきたい。水また、位の上がり方について、国から数時間後の予測値をもらえることになっている。今までより準備ができるようになるので、しっかり情報発信していきたい。

<委員>気象庁から「ただちに命を守る行動を取って」と言われても良く分からないので、市はこの場所は大丈夫だとか、浸水想定エリアの中でも差があると思うので、もう少し細かい情報をいただければと思う。いきなりこのアナウンスではパニックになってしまう。

<市>気象庁等はどうしても強めの注意喚起を呼び掛けることになります。気象情報や防災

情報を受けた市として、市民の皆さまへの注意喚起の仕方、タイミングについては、難しい部分ですが、引き続き検討していく課題と考えております。

<委員>新しく出されるハザードマップの内容は、大きく異なるのか。

<市>令和元年に千曲川、犀川等の浸水想定区域に基づく洪水ハザードマップを全戸配布しており、この度、県の34河川の浸水想定区域が公表されたことに伴い新たな洪水ハザードマップを作成しています。中小河川の浸水想定は、ほとんど大河川の浸水想定区域に飲み込まれてしまうため、大きくは変わらないと考えています。

<委員>復興計画で令和6年度までのロードマップが示され、千曲川、浅川等順調に工事を進めていただき感謝している。令和元年東日本台風災害では、千曲川が決壊し分からなかったが、決壊しなかったとしても結果的に浅川が内水氾濫していたと考えている。令和2・3年も浅川の水位が上がり、いつ溢れてもおかしくない時もあった。浅川総合内水対策で30年間かけて実施する予定のものを5年に前倒しする内容であるが、右岸と左岸の高さに差をつけるというものであり、水害のリスクが増す地区では飲めない内容である。宅地の被害軽減のために農地を浸水させても良いものか。浅川総合内水対策については、県と市が一緒になって見直しをして欲しい。市街化区域内の治水対策を真剣に考えていただきたい。

<県>浅川の外水対策としてダムを、内水対策として排水ポンプや二線堤、堤防かさ上げを行う計画としています。まず、短期間で可能なポンプの工事から始めているが、内水対策は難しいもので、全く水が溢れないということはできないため、まずどこを守るかとなった時に、住宅地を守るということを目標に流域治水をやっていきたいと考えています。流域で一時貯留なども行いながら、いかに流れる水を少なくするかとやってきている。今後の計画策定時には、県と市、また、地元の皆様のご意見をお聞きしながらやっていきたいので、よろしくお願い致します。

<市>地域の皆さんの更なる安全度の向上を目指し、地域の声をしっかり受け止めるための組織として、浅川流域の住民の皆様と連絡協議会を立ち上げた。これまでは、浅川総合内水対策に従って、治水対策を行ってきたが、これからは、もう少し先を目指して検討し、県へ伝えていくようにしたいと考えています。

<委員>浅川の改修について、堤防の左岸と右岸を同じ高さにしてほしいとか、以前からずっと要望してきている。浅川総合内水対策計画を進めていただいておりますが、対策計画そのものを抜本的に見直してほしい。

<市>現在、豊野地区と長沼地区のみなさまと新しい協議会を設置する準備をすすめている。その中で、沿川関係者、県、市が連携して内水対策などについて調査・研究していきたい。

4 その他

【事務局】 長野市災害復興計画検討委員会の次回日程について（令和5年12月頃）

5 閉会